

吉備の埴輪

寒川 史也

講座内容の要旨

・古墳時代前期

今回は「吉備と埴輪」という講座のテーマです。埴輪というと、どのような形をイメージされるでしょうか。古墳時代の前期、3世紀から4世紀にかけ、主に墳丘に樹立したのは円筒形の埴輪でした。岡山の場合、古墳時代をさかのぼり、弥生時代の墳丘墓においては特殊器台が配され、これが埴輪の祖型となったと考えられています。また、埴輪には円筒形以外に、様々な物や人の形をかたどった形象埴輪が存在します。それらは円筒埴輪と組み合わさって列を形成し、古墳を飾ったりした他、場を隔絶して守護する意味合いが付与されたとみられます。形象埴輪の中で早くに登場するのは家形埴輪ですが、時期が下ってくると種類が増え、蓋形、盾形、鞍形、甲冑形、柵形、囿形、水鳥形埴輪があらわれます。また、墳丘においても造り出しや島状遺構といった付属施設がみられるようになり、このような古墳の整備の流れは、埴輪の種類と量の充実といった動きと連動していると捉えられます。古墳時代中期に入ると、上記の他にも、埴輪の焼き方や樹立位置に更新や追加がみられたり、新たに人物埴輪が登場したりするなどの変化が起きました。

・金蔵山古墳

ところで、大型前方後円墳の築造は埴輪生産のきっかけとなりました。岡山における前期前半の段階の状況は、資料数の制約から判然としませんが、後になり金蔵山古墳が一つの画期となります。金蔵山古墳は、同時期の古墳と比べても九州・四国・中国地方で最大規模を誇ります。墳丘は斜面が葺石で覆われ、後円部と前方部墳頂では埴輪列による方形区画が形成され、そこには形象埴輪を含め、当時最先端の埴輪が樹立・配置されたものとみられます。さらに、段築部分の各段テラスにも埴輪列が設けられていることから、埴輪の総量も3000本を超えるのでしょうか。まさに規模に見あう墳丘施設のあり方を示していると言っても良いと思われれます。

・造山古墳

古墳時代中期の5世紀に入ると、岡山では墳長350mの造山古墳が築造されます。埴輪の内容も先の金蔵山古墳をさらに凌駕するものとみられ、近年発掘調査により一部が明らかになってきました。いわゆる百舌鳥・古市古墳群の古墳から出土する埴輪と似た様相をみせる埴輪も存在し、埴輪の製作者は地域間を行ったり来たりして、埴輪づくりに関する情報のやりとりを行っていたと考えられています。また、埴輪の供給といった点では周辺に分布する小規模古墳から関連埴輪の出土があり、造山古墳群造営時における大きな影響力のあとを感じさせられます。

資料 1

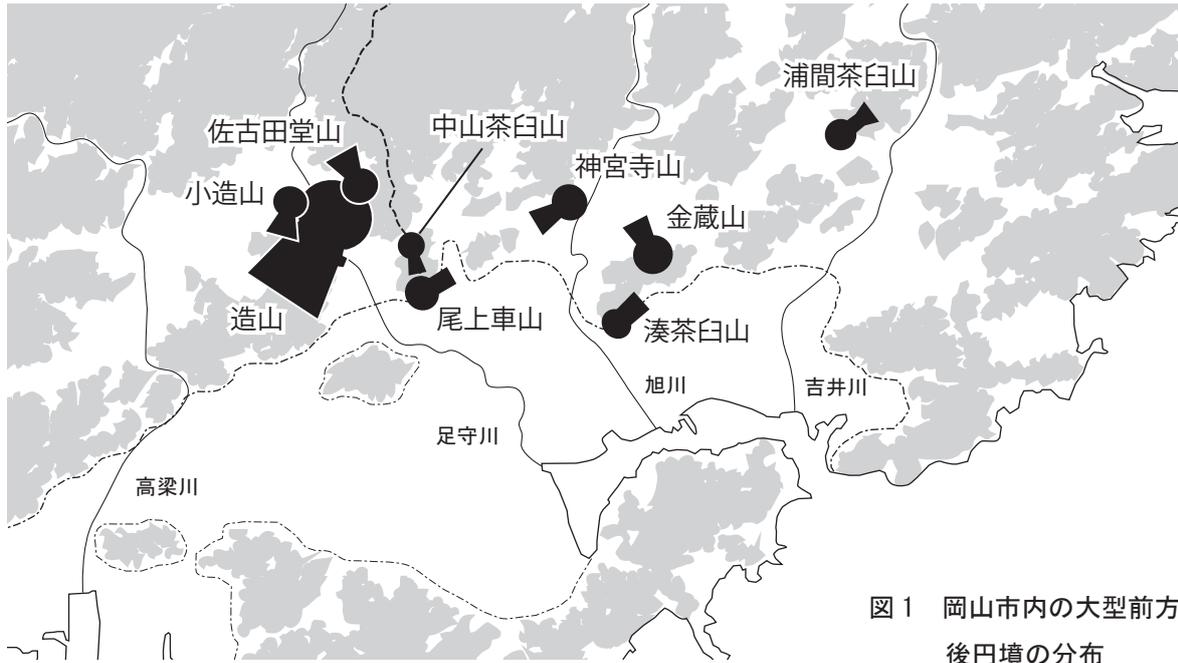


図 1 岡山市内の大型前方後円墳の分布

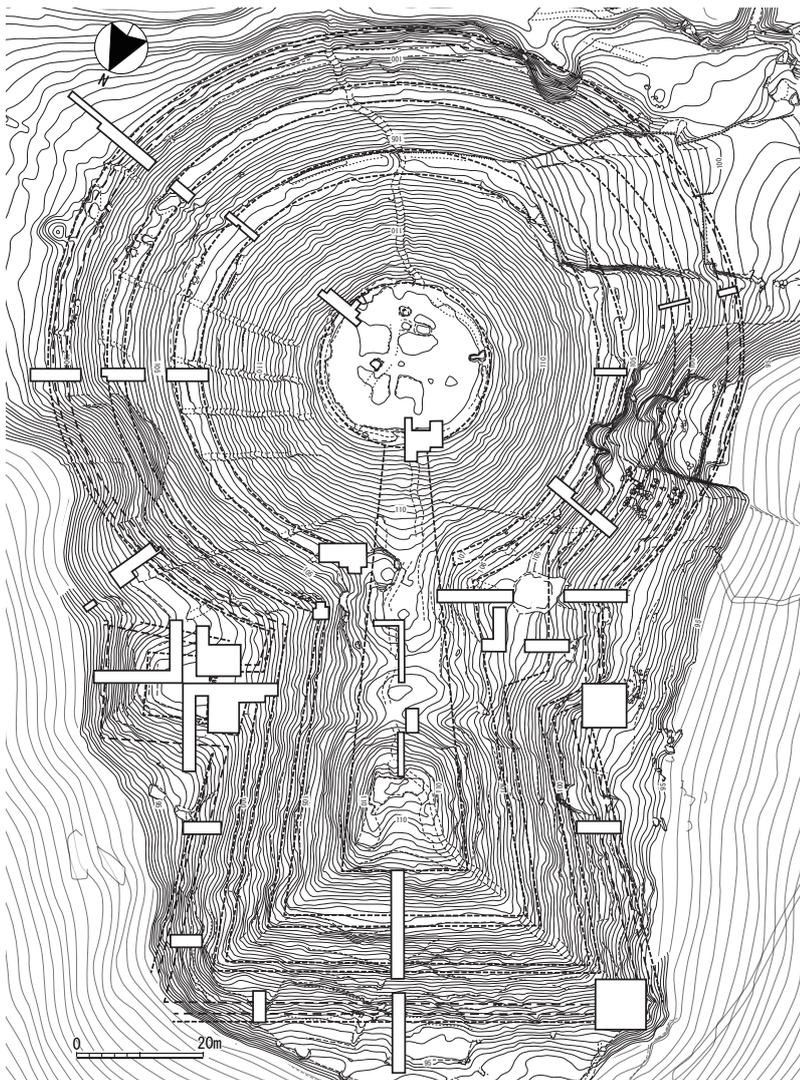


図 2 金蔵山古墳測量図

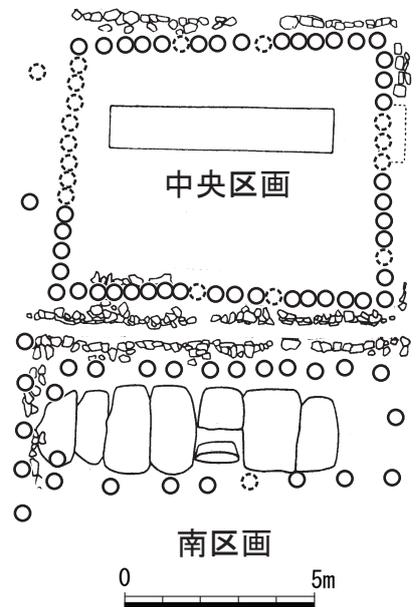


図 3 後円部墳頂埴輪区画

資料 2

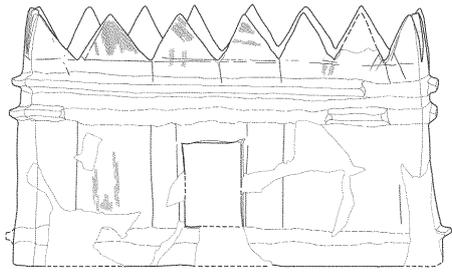
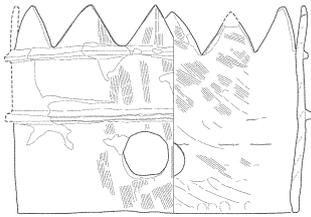


図 4 円形埴輪



0 20cm

図 5 柵形埴輪

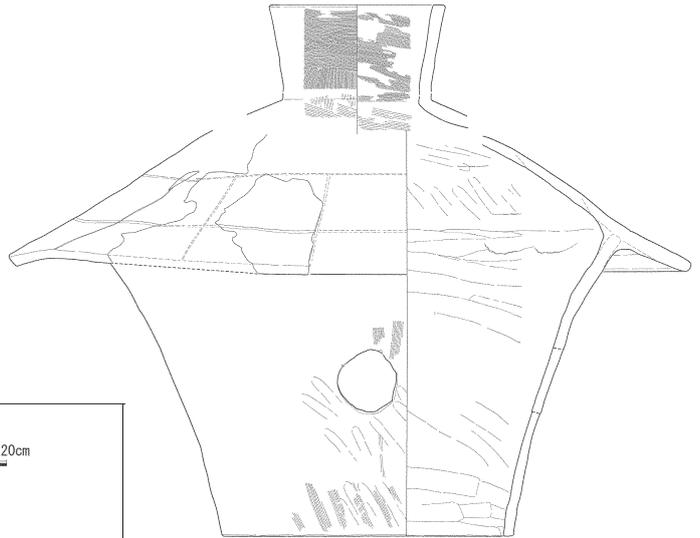
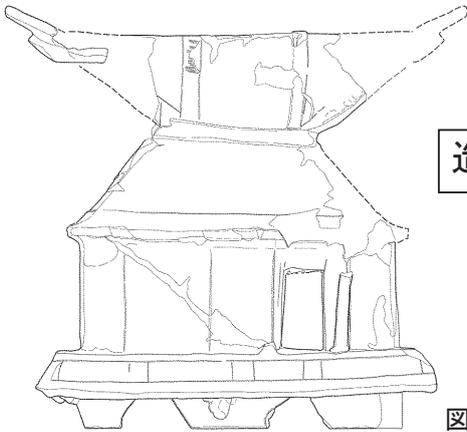


図 7 蓋形埴輪



作り出し

図 6 建物形埴輪

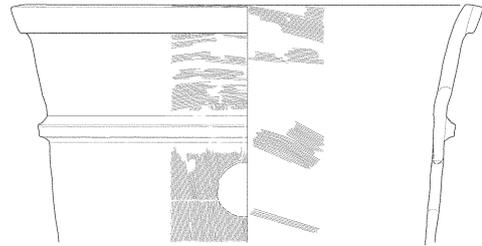
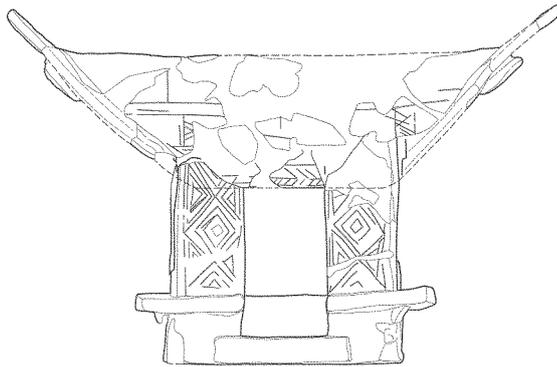


図 8 大型円筒埴輪



島状遺構

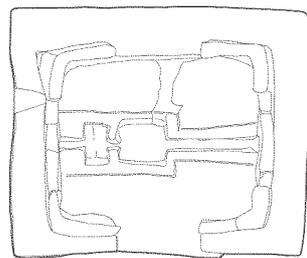


図 9 建物形埴輪とその内部（木樋の表現）

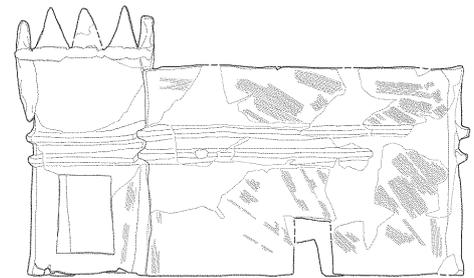
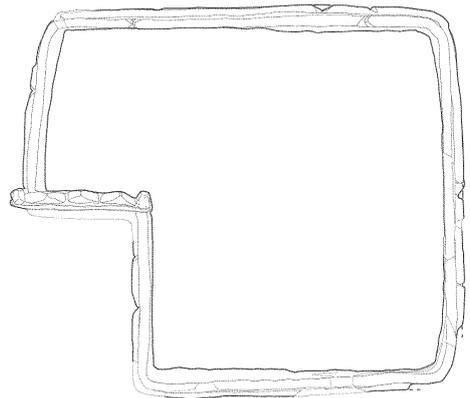


図 10 円形埴輪

資料 3

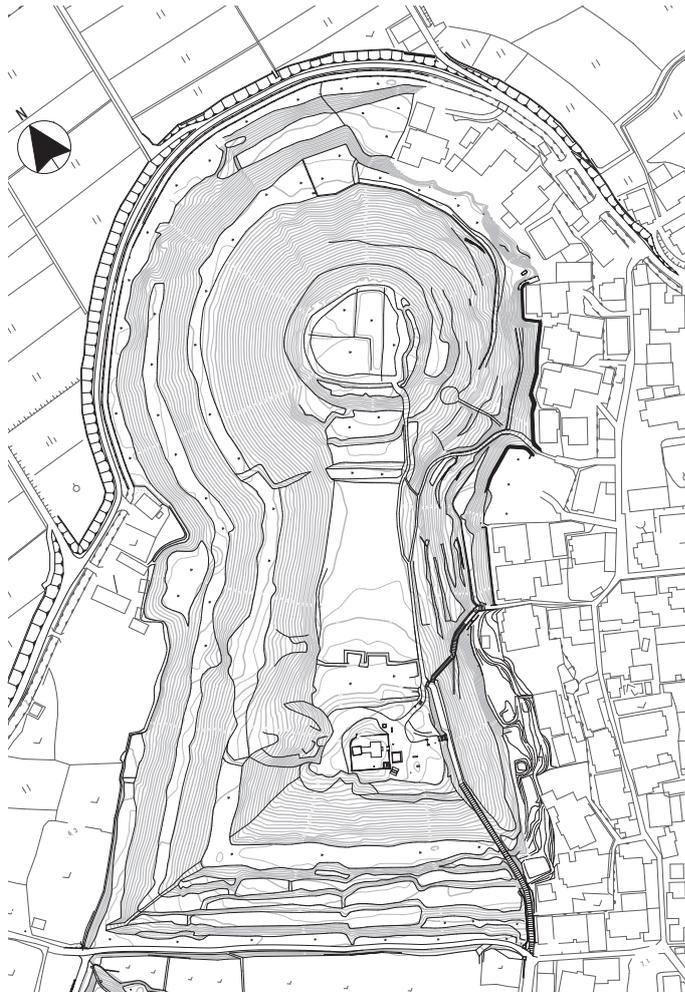


図 11 造山古墳測量図

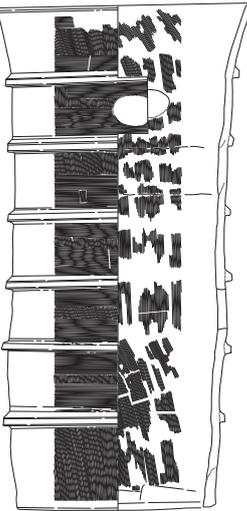
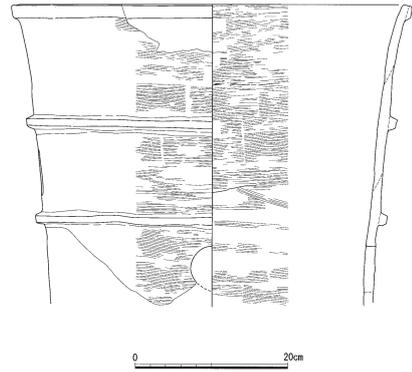


図 12 円筒埴輪

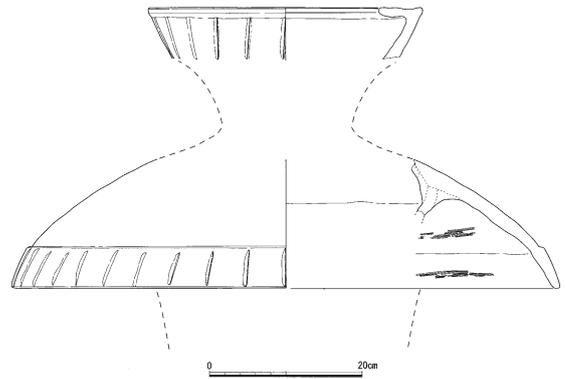
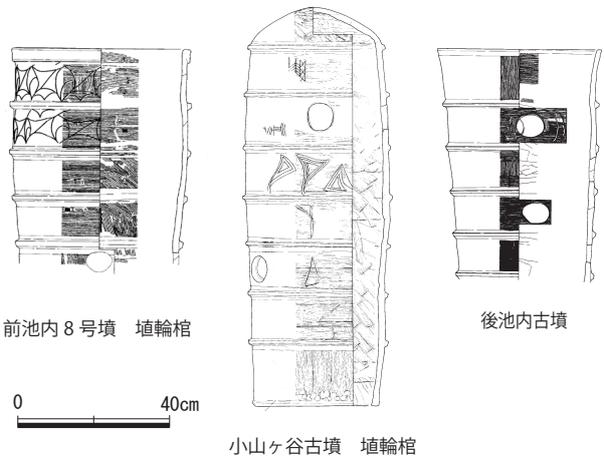


図 13 蓋形埴輪

図 14 周辺古墳の埴輪例

前池内 8 号墳：亀山行雄 1995 「前池内遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』89 岡山県教育委員会
 小山ヶ谷古墳：武田恭彰 2004 「小山ヶ谷古墳」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告』17 総社市教育委員会
 後池内古墳：葛原克人 1995 「後池内遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』89 岡山県教育委員会